

町の本屋は いかにして つぶれてきたか

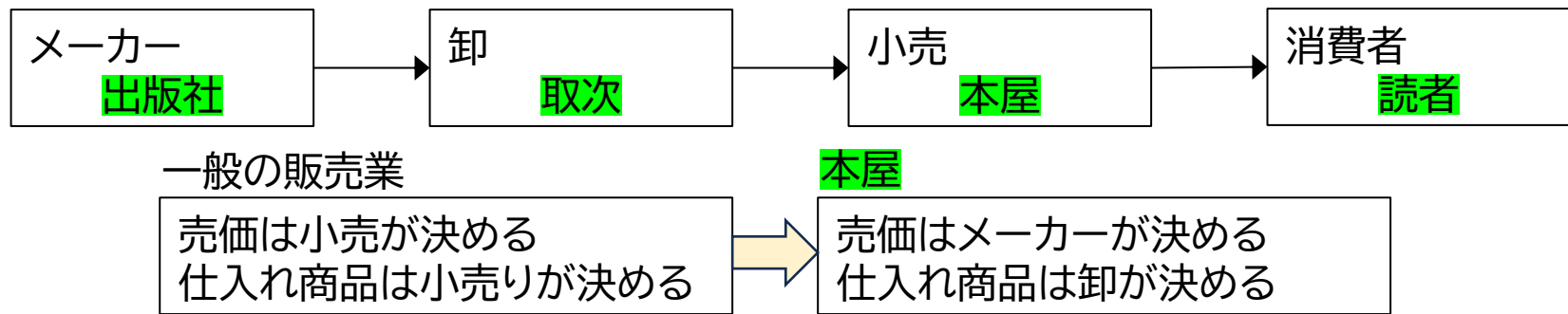
知られざる戦後書店抗争史

配本の偏り、
低すぎる利益率、
国の競争政策……
書店を
追いつめる
諸問題に
向き合う
ときが来た

平凡社新書

町の本屋はいかにしてつぶれてきたか
知られざる戦後書店抗争史
飯田一史 平凡社新書(2025/4)

- この本を読むまで、本屋は再販制度で利益率が確保され過当競争から守られていて、出版社に返品できるから売れ残りリスクもないと思っていた
- この本を読むと、本屋は無理ゲーだとわかる(売価、仕入れ商品が決められている)



- 取次と本屋の圧倒的な規模の差により仕入れ契約条件を事実上一方的に決められている(書店組合はカルテルと見なされ団体交渉権がない)
- 取次一本屋間の取引は「委託販売」ではなくて「返品条件付き販売」(あとで返品できるけど一旦仕入れ代金を払ってしまわないといけない)



現代思想2025年6月号

テラフォーミング ―惑星改造の技術と思想

青土社

●テラフォーミング＝世界最大のBCP

地球に人類が住めなくなったときのために火星や金星に移住する計画

●イーロン・マスクのスペースX社計画などにより全くの絵空事ではなくなってきた

●この本では、テラフォーミングの倫理的問題にフォーカスし、思いとどまらせる論調が多数

●でもテラフォーミングの実現にはまだ何百年もかかる（地球が危なくなってから始めても間に合わない）し、惑星の研究により地球環境の知見も得られるのでやってもいいんじゃないかと思った

●異星との邂逅に係る創作として紹介されているSF小説「皆勤の徒」やマンガ「まぐろちゃんは食べられたい」にも興味をそそられる



それでも私は
Though I'm His Daughter...
2025/6 © Yo-pro

- 麻原彰晃(松本智津夫)の三女松本麗華が主人公のドキュメンタリー映画
- 舞台挨拶で監督が「彼女を主人公としたドキュメンタリーはテレビでは流せない、映画でしか公開できない」と語った

- 何度もわたしの身の回りの生活圏の風景、映像が写り、うちのごく近くに住んでいることがわかった
- 冒頭被害者の親族と会う場面で、正反対の立場なのに似た境遇でそれぞれ苦しい人生を歩んできた同志のような対話が印象的だった
- 未だに教団幹部とみなされたためか栃木銀行の窓口で口座開設を断られてた
- 反社チェックは今どこの企業もやっていると思うが、誰が反社にあたるのかを自ら主体的に判断している企業はほとんどないのではないか
- 国(公安調査庁)の判断を鵜呑みにするだけなら、為政者が誤れば国全体が誤った方向に向かってしまう(国家公認の差別が行われている)